

2011年度(平成23年度)組織について

1. 組織

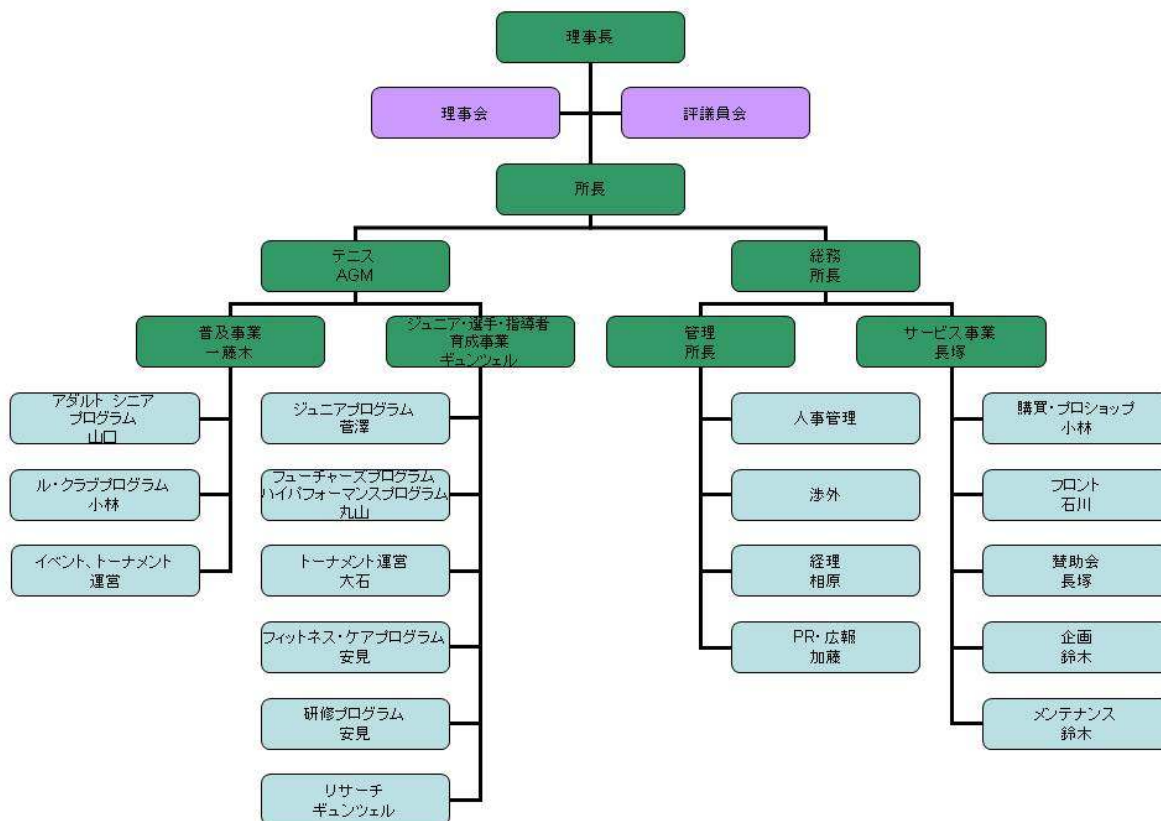
2010年度に運営組織の見直しを図り、また公益法人制度改正に向けて内容の充実、並びにTTCを取り巻く環境の変化に対応できる体制に変更して、下記の組織図にて運営してきた。2011年度も変更はなく同様の組織で行う。

(1) 継続目的

- ①情報の伝達を徹底し仕事のスピードアップを図る。
- ②統括部長による各セクションの責任を明確化し、全体の流れの把握に努め、決断・実行のスピードアップをする。また各部門のコミュニケーション強化を図ると共に、スタッフへの教育・指導の責任を持つ。
- ③ハウスルール・就業規則を基にスタッフとしての心得や、役割を明確にする。

(2) 組織図

< 2011年度 組織図 >



2011年度(平成23年度)事業計画

I テニス部門

1. 普及事業<アダルトシニアプログラム>

(1)基本方針

①普及活動の拡大

『世代を越えて、レベルを問わず、テニスの輪を広げる』環境づくりを目指す。

②各部門との連携を図り、サービス及びプログラムの更なる充実を目指す。

③コーチングとティーチングのスキルアップを図る

(2)具体的な施策 1

①週末及びナイターのレッスン時間等を見直す。

②ジュニアプログラム、Le Club TTC、イベントとの連携を図り、プログラム及びサービスの充実を図る。

③下記のレッスンのご案内を行う。

- ・フリーチケット、追加レッスン
- ・プライベートレッスン
- ・特別レッスン（＝体験や内容限定など）

(3)具体的な施策 2

①コーチの教育

- ・コーチング及びティーチングのスキルアップを目指す。
- ・外部から講師を招き、年間40時間の教育プログラムを進め今年で3年になる。次の段階として内部で研修が出来るようにする。
- ・カリキュラムの進捗状況（顧客ファイル）について、プラン、実行、チェック、アクションを繰り返し実施する。
- ・年齢別、レベル別などの指導方法を再検討する。
大人版 PLAY&STAY（オレンジボールやグリーンボールの使用）の提案。
- ・ゲームウィークを年2回（9月、3月）実施する。

②顧客ファイルの更なる活用

- ・顧客ファイルの整理を徹底し、情報を共有し活用する。

③人員配置の効率化を図る。

- ・イベント、トーナメント、セミナーなど、すべての業務におけるスタッフニングの効率化を図る。

④キャンペーン・イベント・トーナメント・コーチ派遣の企画と実施

- ・各種キャンペーンを企画する。（入会・紹介・フリーチケットなど）
- ・月例トーナメント（M-1）レディースの開催
- ・土日ナイタートーナメント（受講生対象ダブルス・シングルス）の開催
- ・ビギナー対象のトーナメントとイベントの開催
- ・季節を意識したイベント企画

- ・当日ワンコインレンタルコート企画
- ・GENKI（TTC内レストラン）とのコラボレーションした企画
- ・東京大学、柏市テニス協会講習会へのコーチ派遣（5月、10月）

⑤プロモーションの企画と実施

- ・ターゲット（目的と対象）を明確にする。
- ・インターネット環境を整える。（鮮度の良い情報提供）
- ・口コミ勧誘の強化。（独自のノウハウづくりを図る）

総務協力体制の下、SA（コンピュータースクール管理）を活用するなどし、アンケート調査も積極的に取り組む。

2. Le Club TTC

(1)基本方針

Le club TTCは、賛助会員の皆様に一層テニスを楽しんで頂くことを目的に2002年に発足した。現在、373名の会員を数え、御客様の新たなニーズに応えた内容と、多くの人が一緒に楽しめるプログラムを目指していく。

(2)基本活動

①クラブメンバーの練習会

- ・昼の部・夜の部の練習会

日曜以外すべての曜日に練習会を設け活動の場を広げる。また、女性会員・ビギナーレベルが夜の練習会に対応できるように、初心者のレッスンを金・土の夜に設けるなど、テニスの楽しさを体感して頂くようにする。

- ・レベルを問わず、多数の方とプレーをする。
- ・ルールやマナーの啓蒙と指導を継続的に行う。
- ・会員同士お互いに紹介できるコミュニケーションを大切にする。
- ・外部、内部トーナメントへの参加を促し、活躍の場を広げる。
- ・すべての方々が楽しく参加しやすい環境を提供する。

②チームクレサンチーム（※KAZUKO杯等の上位入賞者で構成するクラブメンバーチーム）

会員リーダー[大木 ゆかり]

- ・ピョピョ、初打ちなどのヴォランティア活動及び、クラブ会員相互との親睦を図る。
- ・TTC及び外部トーナメントにおけるTTC所属で出場する。
- ・毎週1回TTCでの練習を行うことで技術アップし、さらにフィットネストレーニングを実施し、コンディショニングを行う。

③テニスイベント・トーナメント・ツアー（交流会）の開催

- ・お一人、お一人へのお誘いを行い丁寧に行う。
- ・活動状況をビジュアルや掲示板、HPなどによって広く告知する。
- ・スケジュールを調整し、担当コーチを明らかにする。

④TTC内部イベント

◇土曜LPJ (ル・プルジュース 毎月 第1土曜日開催)

- ・お茶会においては、合唱団・ウォーキング教室など全員参加型とする。
- ・健康をテーマとしたサプリメント・機能ウェアのセミナーを取り入れる。
- ・バトルダブルスでは抽選ペア決めや団体戦などを実施し、より多くの方とのコミュニケーションアップを図る。
- ・スタッフ・ジュニアなどを含めメンバーの多様化や交流の場とする。

◇水曜LPJ (ル・プルジュース 毎月 第3水曜日開催)

- ・積極的にテニススクール生を受け入れる大会にマイナーチェンジを図る。
- ・トーナメントの要素を取り入れるなど、様々な試合方法を考慮する。

◇ヴァン・ヴェールダブルスチームテニストーナメント (5、10月)

◇サマーパーティー (7月)

◇サマーミックス、バレンタインミックスダブルス (8、2月)

◇ボサノバの集い (9月)

◇チャリティダブルス (12月)

◇初打ちテニス大会 (1月)

⑤TTC外部トーナメント

◇新春シニアテニス大会 (千葉県シニアテニス連名主催) (1月)

◇柏市クラブ・事業所対抗 (柏市テニス協会主催) (2月・8月)

◇柏市民大会および選手権大会 (柏市テニス協会主催) (4月・7月)

◇日本チームテニス大会 (日本テニス事業協会主催) (2月)

◇千葉県クラブ対抗 (千葉県テニス協会主催) (1月)

⑥国内ツアー (交流会)

◇津幡・韓国交流会 (5月・TTCにて開催予定/今年で7回目)

◇木更津ぼんぼこ大会ツアー (6月・木更津に遠征予定/今年で6回目)

◇バラツアー (5月・検討中/今年で5回目)

◇津幡町YOU遊オープンツアー (8月・津幡町へ遠征予定/今年で9回目)

⑦国外ツアー (交流会)

◇韓国ツアー (11月・遠征予定/今年で7回目となる)

⑧文化活動など

◇チームジャルダン (ガーデニング)

- ・現在9名のメンバーがおり、定期的なミーティングを行いスケジュールの確認をする。
- ・年間の計画に基づき、季節にあったガーデニング等を考えていく。

◇チームクール (合唱団)

- ・毎月 第2、第4日曜日に練習会を行う。
- ・年2回のお茶会 (LPJ) での練習会でテーマ曲を決めて行う。

(3)入会促進について

上記のような活動への参加をお誘いし、お楽しみ頂き、Le Club TTC メンバーの入会

をご案内する。さらに新規入会だけでなく、退会者への積極的な再入会のアプローチも実施する。

3. ジュニア普及プログラム

(1) Play+Stay について

『Play+Stay』をベースとしたカリキュラムを継続して全てのクラスに適用し、より効果的な指導を行う。

- ・各年代・レベルに合ったコートサイズ、ラケットサイズ、ボールを導入。
- ・様々なゲームシチュエーションに対応することが可能になる。
- ・身体的な発達を促す運動に効果がある。
- ・チャレンジマッチにおいてもカリキュラムに基づいたシステムで行う。

今後も、低年齢ジュニアトーナメントでのグリーンボール使用の有効性等について繰り返し保護者へ説明し理解を深める。

(2) 月平均690名、2013年度月平均730名を目標とし、K,Y,C,H クラスの目標生徒数を現状に即したものに設定する。

- Kクラスー 6才以下 4歳～小学1年生（レッドボール）
- Yクラスー 8才以下 小学1年生～小学3年生（レッド、オレンジボール使用）
- Cクラスー 10才以下 小学3年生～小学6年生（オレンジ、グリーンボール使用）
- Hクラスー 12才～18才 小学6年生～高校3年生（グリーン、ノーマルボール使用）

(3) ジュニアプログラムのシステムの見直し

① 費用、諸経費の見直し

② Hクラス（12才～18才）の活性化

集中レッスン、錬成会（月例練習試合）、トーナメント、フリーチケットなどの実施からモチベーションの向上を促すと同時に外部からの取り込みを図る。

③ 受講システムの簡素化

クラス変更に伴い、進級をスムーズに行えるようクラス設定をする。

④ 体験者・ウェイトイング者へのフォローアップ

初めての体験者、入会、クラス変更を希望する方などの情報を整理し、各イベントの案内や臨時の教室開催などを実施し普及・拡大に努める。

⑤ スタッフィングとシフティングの効率化

各コーチが様々なクラスを担当できるように配置する。

(4) イベント・トーナメント及びキャンペーンの実施

① ピョピョ親子ショートテニス教室 年3回の実施

② PLAY+STAY ゲーム大会 年2回 7/18（祝）、12/23（祝）

③ チャレンジマッチ 年6回

④ ジュニアキャンプ 宿泊1回、日帰り4回

⑤ 花野井小学校のクラブ活動支援

⑥ ホームページの活用でより多くの情報発信に努め、活動内容をアピールしていく。

(5) テニス協会、地域との連携

① 巡回教室

柏市企画部国体準備室、柏市テニス協会との協力で柏市内の小学校の体育館等を使い、3年間（16回開催、2回インフルエンザで中止）開催し、約400組の親子が楽しくショートテニスの体験が出来た。

千葉国体終了後も柏市生涯学習部 スポーツ課、柏市テニス協会との協力で下記の日程で継続していく。

5月21日（土） 富勢小学校、 7月 3日（日） 柏第1小学校
10月 1日（土） 光ヶ丘小学校、 12月 4日（日） 田中北小学校
2月18日（土） 高柳西小学校

②今後も『Play+Stay』の普及に努め、さらに JTA（日本テニス協会）と協力し、地域への推進に努める。

4. 選手育成事業

（1）フューチャーズプログラム

①現在の在籍者数

在籍者数：37名

男子＝18才以下：4名、16才以下：2名、14才以下：5名、12才以下：2名

女子＝18才以下：6名、16才以下：7名、14才以下：7名、12才以下：4名

②目標成績

- ・ITFジュニア（男女含めて3名程度が対象選手）

男子：吉田 元樹

女子：小和瀬望帆、中山未紅子、千村夏実

- ・全日本ジュニア出場選手目標（総数10名）

16、18才以下 5名

12、14才以下 5名

- ・関東ジュニア出場選手目標（総数20名）

16、18才以下 10名

12、14才以下 10名

③コンペティティブプログラムについて

- ・「チーム」によるプログラムの遂行。
- ・指導者としての質の向上。
- ・繰り返し練習での土台作り。
- ・目標を設定し計画的に行うこと。
- ・継続的に活動をしていくために基本的な事を徹底する。

1. 認知 → 2. 決定 → 3. 行動 → 4. フィードバック

◇各サイクル（下記）でのコーチミーティングにおける確認事項

- ・途中経過を追い、計画通りに進行しているか確認する。
- ・進行状況に応じた練習や練習試合のコントロールをし調整する。
- ・練習出席日数、練習時間、トーナメント出場数、成績の管理を行う。

- ・ Consistency と Accuracy の徹底をする。
- ・ フォームではなくゲームを指導していく。
- ・ 動作、打球の正確さをトレーニングにおいて身に付ける。
- ・ コーチが判断するのではなく、選手自身が判断し決定する。
- ・ 様々なターゲットゾーンの設定により、動作感覚、調和性、動作の正確性などを身に付ける。
- ・ チーム全員が理解できる目標設定をする。
- ・ コーチ、選手、保護者が目標を理解し、進むべき方向を決定する。

通年の課題としては「Reach Your Max!」を通じて知力と体力と技術力を身に付ける。

④サイクル別の目標課題の設定

第一サイクル：9月～12月 全日本ジュニアなどの夏の大会を見て課題設定

第二サイクル：1月～3月 ピーナッツカップなどの冬の大会結果を見て課題設定

第三サイクル：4月～8月 県ジュニアなどの春の大会をみて課題設定

⑤曜日別目標課題の設定

- ・ マネージャーが曜日毎に練習の課題を設定し、各担当コーチは練習内容を構成する。
- ・ マネージャーが練習内容を確認する。
- ・ 練習内容をファイリングしコーチ間で役立てる。

⑥プログラムの強化

◇コンペティティブプログラムの強化ポイント

- ・ 「ベーシック＝テクニク」という考え方
- ・ タクティカル・テクニカル・バイオメカニカル・フィジカル・メンタル・エモーショナルの考え方をもとに、選手に対してのアドバイスや評価を行う。
- ・ 確実なことを確実に実行できる選手を育成する。
(あたり前のことがあたり前にできる選手)

◇4ヶ年計画の作成

具体案：ステージ1（12才～14才）、ステージ2（16才～18才）に分けて、4ヶ年計画を立てていく。ステージ1までは、個々のレベルにもよるが、全日本ジュニアを目標とし、ステージ2に向かう時点で、フューチャーズからITFプログラムへ移行する選手を選抜していく。

方法：4ヶ年計画の中の1年目・2年目・3年目という考え方のもと、それぞれの年における目標・目的・課題に対する結果を決定していく。各ステージ1年目の共通認識として、現況を分析後4年後はどのようなテニスのスタイルになのか予想する。2年目以降は、年度ごとのゴールを設定する。状況によって上方修正や下方修正もある。

*上記にしたがって実行していくなかで、タイムリーなスケジュール調整を行う。

⑦ITFプログラム（ハイパフォーマンスプログラム）

- ・ 海外キャンプの再開

選手達のレベルアップとともに、14歳以下の選手を対象に行う。

予定 時期：5月 場所：上海ラケットクラブ

最少施行数：8名

※2011年1月～2月までにはキャンプ内容を確定し、対象選手に
インフォメーションを行う。

⑧進学に伴い高等学校との連携

小和瀬望帆の入学を機に麗澤高校との連携がはじまり、主にはITFへの挑戦に対し
引き続き協力体制を整えていく。

また、この春より千村夏美が柏日体高校に入学が決まり、新たな協力体制として、よ
り良い事例となるよう今後に繋げていく。

⑨フィットネススタッフとのオンコートでの連携

U12に関しては、毎週水曜日に安見・高橋両トレーナーに協力を仰ぎ、テニスレッ
スンと同時にオンコートでの身体の使い方（主に重心の位置）を学びながらのレッス
ンを引き続き行う。

⑩教育スケジュール

選手の教育

- ・1月・4月・9月の全体ジュニアミーティング時に行う。
- ・5月全国選抜ジュニアのシンポジウム開催。
- ・11月スポーツ科学セミナー講師によるセミナーの開催。
- ・雨の日を活用したメンタルトレーニングの実施。
- ・U12対象のロジカルコミュニケーションセミナーの開催。

⑪保護者と情報交換及び選手個々の指導目標の伝達（年5回）

- ・1月・4月・9月の全体ミーティングの開催
- ・5月全国選抜ジュニアのシンポジウムの開催。
- ・11月スポーツ科学セミナー講師によるセミナーの開催

⑫コーチの育成

プログラムの質の向上のため、伝え方、着眼点、指導法など机上のみならずオンコ
ートでのミーティングを行っていくと同時に、個々のプレゼンテーション能力の向
上を目的に、課題に沿ったプレゼンテーションを行い、コーチのレベルアップを図
る。

⑬MFA (MEDIC FIRST AID) の受講状況について

引き続きMFAの年間スケジュールをジュニアボードで紹介し、父母の受講を徹底させ
る。2011年2月に受講率：90%にする。

⑭主なイベントスケジュール

- ・白子合宿（年間4回＝2回は強化練習会、2回はカテゴリー分けを行い外部クラブ
との練習試合を予定）・北信越交流会（年間1回）
- ・上海キャンプ（5月予定）
- ・北軽井沢キャンプ（8月18日～21日）・ITFジュニア海外遠征（年1～2回）
- ・筑波山トレーニングキャンプ（9月）

(2) エキストラプログラム

①対象選手と日程：

対象選手：全日本クラスの大会でシングルスベスト16

ダブルスベスト8以上

16歳以下と18歳以下の選手

※身体的成長や過去の段階的練習を考慮し14歳以下の選手も
加わることがある。

練習日程：テニス 月・火・木・金曜日の週4回（16：00～18：00）

フィットネス 水曜日（16：00～17：00）

土曜日（13：30～15：00）の週2回

②コーチングスタッフ：

テニスコーチ：丸山弘道、森寛志、ジェイソン・イー その他

ヒッティング：小山裕史

フィットネス：ホルスト・ギュンツェル、安見拓也

④費用：2万円

(3) レベルアップコース

①指導方針として基本の徹底をする。

・3つの約束

◇時間を守る。

◇挨拶をする。

◇身体や物を大切にす。

・姿勢や呼吸にも意識を持つ。

・自分のことは自分で行えるよう自立心を育てていく。

・テニスに対する知識やモチベーションの向上を図る。

・「テニスはゲーム」であることを伝え、ゲームベースに基づき選手育成を行う。

②在籍人数目標（年度末予定）： 18名

入会目標8名、卒業予定8名

③キャンプスケジュール（年間6回予定）

・スプリングキャンプ 5月 28日（土）

・サマーキャンプ 7月 2日（土）

・オータムキャンプ 11月 3日（祝）

・クリスマスキャンプ 12月 10日（土）

・北軽井沢キャンプ 2011年8月

レベルアップからの参加者 5～7名予定

・ブリテッシュヒルズキャンプは開催予定 2012年1月7～9日

・宿泊キャンプ 春・秋に一回ずつ実施予定

・筑波山登山トレーニング 冬に実施予定

※キャンプの目的：宿泊キャンプを引き続き実施し、自立心を持たせる一歩にする。

TTC 内で寝泊まりを行い、集団生活を通し自立心を育てていく。また、筑波山の登山トレーニングも継続して実施し、整地された環境との違いやさまざまな変化に対応して感性を磨くことを目標とする。また、保護者の参加も積極的に促しコーチサイドとの共通経験を通しコミュニケーション強化を行う。

④全体ミーティング開催予定回数：年間5回以上

- ・ 4月 9日（土）：レベルアップ年間スケジュール
（キャンプ・イベント・TTCの活動）について
- ・ 6月25日（土）：夏の大会に向けて（大会の選択方法、熱中症対策、食事）
- ・ 9月 3日（土）：冬の大会に向けて（食事、フィットネステストの結果）
- ・ 全国選抜のミーティングへの参加
- ・ 科学セミナー講師によるセミナーへの参加

⑤ヴォランティア活動

- ・ ジュニア対象（ボールキッズとして参加予定大会）
 - ◇全国選抜ジュニアテニス選手権大会（5月）
 - ◇柏オープン（6月）
 - ◇NEC J W T A マスターズ（12月）
- ・ 保護者対象：
 - ◇ウェルフェア（12月）
 - ◇ブロッホカップ受付（年5回）
 - ◇全国選抜ジュニアテニス選手権大会（5月）
 - ◇バイスクルツアー（6月）

⑥チャレンジマッチの日程（年間6回）

- ・ 4月23日 ・ 6月4日 ・ 7月9日 ・ 10月8日
- ・ 11月5日 ・ 3月31日

⑦その他

MFA資格取得:引き続きレベルアップ参加の保護者は受講して行く方向でご案内する。

(4) 車いすテニスプログラム

①Group A (ITF ランキング男子20位以内、女子15位以内、クアード10位以内)

目標： 「南アフリカ・ワールドチームカップでの1部リーグへの昇格」を目指す。

2012年ロンドンパラリンピックの1年前として「テニスにおける選手の成長」と「ランキング上昇」に向けて夏場から本格的な駆け引きが始まる年度となる。ダブルスにおいては、5月のジャパンオープンからロンドンへ向けて「斎田&国枝」ペアの固定を考え、技術・戦術ともにレベルアップを図る。また、三木選手のランキングを上げていき、ロンドンへの切符を手に入れることのできるような育成も同時に行い、実際に代表に選出されることを想定し「藤本&三木」ペアでの練習も始めていく。

②プログラム参加選手（シングルス順位/ダブルス順位）

グループA： 男子：国枝慎吾(S1/D4)・齋田悟司(S8/D6)・

藤本佳伸 (S16/D13) 以上3名
グループB： 男子：本間正広 (S38/D86) 古賀貴裕 (S26/D29)
三木拓也 (S148/D240)
女子：深山知美 (S55/D34) 以上4名

2010. 11. 15 現在 (ランキングは全て ITF)

以上の選手を、プレイヤーズプログラム選手として強化していく。

③具体的な選手の目標

齋田 悟司 (メソ) ⇒ ロンドンパラ シングルス・ダブルス Gメダル GS出場

2010～2011 WTC 優勝

国枝 慎吾 (メソ) ⇒ ロンドンパラ シングルス・ダブルス Gメダル 世界ランキング年間1位

2010～2011 WTC 優勝

藤本 佳伸 (メソ) ⇒ ロンドンパラ シングルス B16 2010～2011 WTC 優勝

三木 拓也 (メソ) ⇒ ロンドンパラ 代表選出

*今年度の目標はそれぞれに年間計画を作成。

④TTC プレイヤーズ対象選手の強化Camp

日 程：2011年 1月11日～ 14日 (TTC)

2月23日～ 25日 (TTC) *アン・クィーン氏来日

4月12日～ 15日 (TTC)

5月14日～ 15日 (福岡)

9月中旬 (TTC)

時 間：テニス 6:30～9:00 (インドア) フィットネス 10:00～11:30

対 象 者：齋田悟司・国枝慎吾・藤本佳伸

コ ー チ：丸山弘道・山倉昭男・大高 優・ホルスト・ギュンツェル

⑤TTC プレイヤーズ対象選手の Outside Camp

「夏季キャンプ」

日 程：8月17日～23日(変更の可能性あり)

場 所：未 定

対 象 者：齋田悟司・国枝慎吾・藤本佳伸・(本間正広・上木原舞美：検討)

コ ー チ：丸山弘道・山倉昭男・(Fitness Coach 未定)

⑥TTC車いすプログラム (アダルトプログラムレッスン)

現在のプログラム総人数は、TTC全体で「33名」(前年比プラス7名)と

なっている。普及に所属する方々が増加し週末のレッスンも盛況で、選手の

レベルや目的に応じた環境も整ってきており、引き続き、障害施設や病院などに普及活動を進めていく。

⑦Cグループレッスン

日 時：毎週土曜日 16:30～18:00

場 所：テニス：16:30～18:00 (アウトコート2面)

フィットネス：14:00～16:00

スタッフ：山田翔・高橋秀友 アシスタント：池ノ谷俊夫

選手：本間正広・三木拓也

選手の募集(新たな選手を発掘して5名体制として目指す)

⑧キャンプ関係

・オープンキャンプ

日程：3月26日(土) テニス / 3月27日(日)

午前中フィットネステスト

対象者：全国の車いすテニス選手

スタッフ：丸山・森・大高・稲葉・穂積・ジェーソン・山田・
Fitness Coach・総務加藤

※具体的な時間や募集人数等については、後日決定する。

⑨コーチのプライベートレッスン

丸山 弘道：育成担当齋田選手・国枝選手・藤本選手、レッスン三木選手

森 寛志：齋田選手・国枝慎吾・藤本選手 いずれもレッスン

大高 優：レッスン齋田選手・三木選手、育成担当藤本選手・根岸紘未(ジュニア)

山倉 昭男：レッスン藤本選手、育成担当本間選手・三木選手・深山選手・
古賀選手、藤由一真(ジュニア)

山田 翔：レッスン本間選手

池ノ谷俊夫：レッスン深山選手・古賀選手・三木選手

⑩その他

- ・テニスのみならず多くのスポーツ指導者および選手とのコミュニケーションを広げる。
- ・TTC スタッフの車いすテニス指導の向上の一環として、スタッフセミナーの中で専門知識を指導していく。

⑪ツアーへの同行

- ・AUS オープン (オーストラリア) : GS (グランドスラム) 1月26日～29日
- ・ワールドチームカップ (南ア) : 4月25日～5月1日 (JWTA)
- ・ジャパンオープン (福岡) : SS (スーパーシリーズ) 5月17日～22日
- ・ローランギャロス (フランス) : GS (グランドスラム) 6月1日～3日
- ・ウィンブルドン (イギリス) : GS (グランドスラム) 7月

⑫アンクィーン氏の協力

北京までの2年間をアンクィーン氏がメンタルコーチとして、出場選手のメンタルを支えてきた。今年度からロンドンに向けてのメンタルサポートを開始していく。

2011年度は、年間2回(TTC強化キャンプに招致とフレンチオープン)を考える。

5. フィットネス

①フィットネスの目的

- ・アスリートを育てる

低年齢ジュニア : 「基礎体力の向上」、「コーディネーション」

競技ステージの選手：「走る」、「アジリティ」、「重心感覚の育成」、「基礎筋力の向上」

・体力作りの啓蒙

②主な業務内容

- ・TTCジュニアプログラム（普及ジュニア、レベルアップ、フューチャーズプログラム）に属する選手のためにフィットネストレーニングを行い、向上させる。選手の長期計画に基づき、アニュアルプランやゴールを達成させるためのサポートをする。
- ・車いすテニスプログラムに参加する選手のフィットネストレーニングを行い、向上させる。
- ・フューチャーズプログラムとレベルアップコース（4月と9月）、ジュニアクラス（6月）の選手にTTCフィットネステストを行う。
- ・アダルト、シニアメンバーのためにフィットネストレーニングをサポートする（グループトレーニング、コンサルティング、フィットネスチェックなど）。
- ・スタッフ研修及び情報発信。
- ・他の団体、施設の見学、プログラムサポートを行う。
- ・フィットネス施設のリニューアルを行う。

③ジュニアプログラム

・フューチャーズプログラム

1週間の練習時間は平均10－12時間、加えて1週間に10時間ほどトレーニングの準備やまとめに時間を費やす。

・レベルアップコース

1週間の練習時間は平均5時間にフィットネストレーニングを行う。

・フィットネストレーニングのより良い計画と調整を行う。

テニスコーチとの協力、トレーニングプログラムを年代別に週間計画まで行う。

・コアトレーニングとコーディネーションチャレンジシート

コアトレーニングは、スポーツ障害を予防し、パフォーマンスを引き出すことを目的に行う。しっかりと身体を支える機能を発達させることが大きなテーマであり、今後も積極的に取り組む。

また低年齢の神経系の発達を目的にコーディネーションチャレンジシートを毎日活用（トレーニングの時間外に）し、難易度・レベル別に、黄色・水色・青色・赤色のキーホルダーを授与し、テニスへのモチベーションに繋げており今後も注力して進める。

コーディネーションチャレンジシートは2005年5月からスタートし、これらのトレーニングは毎年2回行うフィットネステストの結果の向上と相関性が出て来ており、今後のフィットネス能力の向上に期待が持てる。

- ・フィットネステストの実施
 フューチャーズプログラムと、レベルアップコースの選手に年2回（4月と9月）実施し、テスト結果は、ジュニアミーティングで個別に分析した後、フィットネストレーニングで重点的に鍛えるよう指示する。
 フューチャーズプログラムは、体力作りのモチベーションアップのために、フィットネスボードに全選手の記録と、種目別及び年齢別の最高記録を掲示し、テスト終了後3週間以内にフィードバックする。
 テストにおける目標評価値 4.0(最高値 5.0)とし全体の80%を目指す。
- ・トーナメントのサポート
 千葉県ジュニア、関東ジュニア、全日本ジュニア、国内で行われるITFジュニアトーナメントなどのサポート行う。
- ・フィットネステストの実施（全ジュニア対象（週1クラス）、6月）
- ・フィットネスの有料化（2010年度は低年齢ジュニア（Yクラス）で実施）
 フィットネスを有料化して、プログラムの質を向上させ、基礎体力の強化と、チャレンジシートを有効に使い、コーディネーションの発達を促すことも継続して行っていく。
- ・TTCジュニアキャンプ（レベルアップ、Y、Cクラスの選手）を実施する。
- ・おはようキッズに参加している両親や子供に対し、おはようキッズ終了後あそびの日を年に10回（昨年度10回）行う。また、今年度も昨年度同様、あそびの日のテーマを毎月告示。参加しやすいイベントにし、よりオープン化を目指す。

④プレイヤープログラム

- ・プレイヤープログラムの選手、もしくはTTC個人利用者のためにフィットネストレーニングを行う。
- ・ツアー中の選手に対して、フィットネストレーニングをアドバイスする。

⑤車いすテニスプログラム

- ・車いすプログラム選手（プライベートトレーニング、グループトレーニング）にフィットネストレーニングを計画し実行する。
- ・ツアー中の選手にフィットネストレーニングをアドバイスする。
- ・フィットネスレベルの観察と分析のため、試合の観戦をする（2011年、ジャパンオープン、広島ピースカップ、JWTAマスターズ）。
- ・フィットネステストの実施
 TTC車いす選手と外部の選手のために、年2回のフィットネステストを行う。
 A-カテゴリー選手は、年間計画によって日程を調整する。他の選手は、4月と秋（未定）の車いすキャンプの中で行う。この結果を評価し、次の期間のトレーニングへ活かす。
- ・車いすプログラム選手（AとBカテゴリー）のために行うTTC内と、主要なトーナメントに向けてのTTC外のトレーニングキャンプをサポートする。

⑥お客様へのサポート

- ・お客様からの要望に応じ、身体的チェック、コンサルティング、特定のクラスのためにフィットネストレーニングの指導を行う。
- ・昨年度から行っているフィットネスボードの活用を継続する。定期的にポスターを掲載して、フィットネスへの意識を啓蒙し、更に希望者に対しては、ポスターの内容に合わせたプログラムを提供する。

⑦フィットネススタッフの研修

- ・フィットネススタッフは、テニス選手、車いすテニス選手のフィジカルコンディションとフィットネストレーニングについて、年に4回フォーラムを行う。
- ・TTC内外のセミナーとシンポジウム（スタッフセミナー、スポーツセミナー、スポーツ科学セミナー）に参加する。

⑧キャンプ、セミナー、クリニック

- ・キャンプでのフィットネスプログラムをアドバイスする。また、TTCの選手と一緒にキャンプに参加し、フィットネストレーニングを行う。

◇ジュニアプログラム

- ・ブリティッシュヒルズ、北軽井沢キャンプ。
- ・TTCジュニアキャンプ（レベルアップ、Y、Cクラス）
- ・関東ジュニアと全日本ジュニアの準備のために、スペシフィックフィットネスキャンプを行う。また、新しいトレーニングサイクルが始まる準備として、ジェネラルフィットネスキャンプを行う。これらは、テニスコーチからの要請により、トレーニングキャンプの日程が決まる。

◇車いすプログラム

- ・トーナメントに向けて、TTCとTTC外でフィットネスキャンプを行う。

⑨その他

- ・バイシクルツアー（サイクリングツアー&B.B.Q）
- ・TTCスポーツデー（様々なスポーツを遊び感覚で楽しむ）
- ・TTCファンラン（自然の中で走ることを楽しむ）

※今年度もあそびの日と同時開催予定。

- ・TTCの様々なイベントで、フィットネストレーニングのクリニックを行う
- ・上記のイベントなどに対し、フィットネスでの取り組みを外部に発信する。

6. スポーツケアルーム

トレーナーサイドから関わる全ての人に対し、内的モチベーションの向上を手助けする。また、ナショナルチームの活動に参加して、ネットワーク構築を強化する。

①プレーヤーズプログラム

ベテラン選手と若手選手のそれぞれに機能するケアをしてゆく。身体のチェックを月1回ずつ行い、問題の早期発見・解決に努め、1年間を通じて戦えるようにサポートしていく。他の医療機関やトレーナーとも連携していく。

【帯同予定トーナメント】 全日本選手権大会と2名以上が同時にプレーするトーナメントで年間2週間以内。

②ジュニアプログラム

- ・ フィットネストレーニングプログラムに傷害予防の要素を組み込む。
- ・ クロスフィットのノウハウを応用する。
- ・ 選手の内科的な問題に対しては阿倍小児科のサポートを受けて、血液検査をリアルタイムで行い対応していく。
- ・ ハイパフォーマンス選手の年間スケジュールを管理し、オーバーワークを予防する。

【帯同予定トーナメント】 関東ジュニア、全日本ジュニア選手権

③車いすテニスプログラム

トップクラスの1/週のケアは、傷害の早期発見・早期対応に効果を上げているので引き続き行う。

- ・ アンチドーピングセミナー参加。
- ・ JWTA のナショナルチームトレーナー業務。

④一般の対応

- ・ スポーツケアの料金体系 30分/¥3,150円、1時間/¥5,250円で対応する。
(フルスタッフ、フューチャーズ12歳以下、デイトム参加者、車いすテニス選手Bカテゴリーは半額)
年間220人の許容とケアルームからの現金収入100万円を維持する。
- ・ コーチ陣に対する応急処置スキル維持、向上の徹底する。

⑤バックアップ体制の充実

早稲田大学福林徹先生、キッコーマン総合病院田中先生、阿部小児科阿部正視先生、
蒔田理療院蒔田昌彦先生、日本医大尾崎大也先生(車いすテニス関係)、日本テニス協会
医事委員会と実質的な連携が取れる体制を強化していく。

⑥MFA(MEDIC FIRST AID)

- ・ スタッフのアップデートを徹底するために、平日の夜の時間を使って講習会を行う。

⑦他のトレーナーや医師、治療家の協力要請

プログラム参加者が内科的疾患や不定愁訴を訴えるケースで、鍼灸の適用とトレーナー
が判断した場合にはケアルームでの鍼灸治療を要請する。

(有料：料金¥6,000円/回)

⑧トレーナーの研修

フィールドケア21(ドクター・トレーナー勉強会)への参加。選手の受け渡しや研修
会の依頼ができるような関係を構築することをゴールとして、医師やトレーナーとのネ
ットワーク作りを行う。

7. 指導者育成事業(研修部門)

①スポーツ科学セミナーとスポーツセミナー

- ・ スポーツ科学セミナー

予定日：2011年11月12日(土) 関西会場、11月13日(日) 北信越会場

11月16日(水)、11月17日(木) 関東会場(TTC)

11月19日(土) 東北会場 山形、11月20日(日) 九州会場

テーマ：未定

講師：コンラッド氏（上海）

対象者：全国のテニスコーチ

責任者：ギンツェル（国際コミュニケーション）、安見（国内コミュニケーション）
森・総務部門（事務）

・スポーツセミナー

a スポーツセミナーⅡ

日程：2011年2月20日（日）

「広告からはわからないサプリメントの実際」

講師：谷野豊氏 分子生理化学研究所 製品開発部・学術部 部長
工学博士

対象者：関東近辺のテニスコーチ

リーダーシップ：安見、鈴木、

b. スポーツセミナーⅠ

日程：2011年6月19日（日）

講師：未定

対象者：関東近辺のテニスコーチ

リーダーシップ：安見、鈴木、森

②クリニック／キャンプ／シンポジウム

・全国選抜ジュニア期間中教育プログラム

テーマ：JTAと交渉

対象者：コーチ、選手、父母

日程：JTAと協議

講師またはパネラー：未定

リーダー：トーナメントディレクター、ギンツェル、丸山、安見

・JWTAマスターズ期間中のクリニック

日程：未定

担当：テニスコーチ、フィットネススタッフ

リーダー：トーナメントディレクター、テクニカルディレクター

③インターンシップ

価格表の作成：2011年3月末まで

総合プログラム、アダルトプログラム、ジュニアプログラム、フィットネスプログラム、車いすプログラムのインターンシッププログラムをホームページ上でオープンにする。

④スタッフ、メンバーの教育

第3サイクルの残り

・低年齢の子供のためのスピードトレーニングの基礎

2011年4月20日（水）

講師：ギンツェル氏

・テニスパフォーマンスの構造

テニス技術の分析

テクニック習得のトレーニングと最適化のトレーニング

日時：5月の全国選抜ジュニアの前後

講師：リチャード氏

・筆記試験

説明会：2011年4月6日（水）

試験：2011年5月25日（水）、6月22日（水）再試

6月以降の教育プログラム

第2水曜日を使い内部研修を行う。内部研修は内部講師による講習会に加えて、以下の取り組みをする。

- ・2013年までに外部へ出て行ったスタッフが内部講師となり、スタッフの知識水準向上に貢献するシステムを構築する。
- ・TTCの教育プログラムに必要なテーマを抜粋し、スタッフの中からテーマごとに深く勉強する意欲を持つスタッフを選抜して、外部セミナーへの出席や資料収集に対し資金援助を行い、内部セミナーの講師となり講習を行う。

⑤MFA (MEDIC First Aid) の実施

2011年 2月26日（土）、4月3日（日）、6月18日（土）、9月17日（土）、
12月4日（日）

2012年 2月25日（土）

⑥応急処置試験

年に1回の実技テストを実施し、知識とスキルの向上・維持に努める。新入社員に対しては試験期間までに講習会を別途設ける。

2011年6月7日（火）～6月11日（土）

⑦アンチドーピングセミナー

日程：2011年4月16日（土）16：30～

講師：福林徹先生

対象：ITFや全日本大会に出場する競技選手、コーチ

⑧その他

- ・中学校の職場体験や小学校のキャリアアップ教室は、前向きに受け入れる。1ヶ月以内に3つを上限とする。責任者をコーディネーターとする。

8. イベント

目的：

- ・イベントの意義や方向性を明確化する。
- ・問題点や改善点などをディレクターとイベントセクションと協力・連携を取る。
- ・集客や勧誘、他イベントとの関連付け、情報の交換、公開など内容の強化、効率化を目指す。

- ① イベント実施報告書の活用
 - ・準備に当たり、前年度の改善点を検討する。
 - ・経費削減しイベント収支の改善に努める。
 - ・協力団体、協賛各社の内容を確認する。
 - ・仕事の内容を明確にし、ボランティアをお願いする。
- ② イベントの準備、進捗状況の確認
 - ・3ヶ月前にディレクターにイベント準備の確認をする。
 - ・イベントの準備、進捗状況を定例ミーティングで確認する。
- ③ ホームページの活用について
 - ・イベントの告知、要項、仮ドロー等などホームページを活用し、御客様がダウンロード可能とすることで経費削減に繋げる。
- ④ イベント関連企業一覧表の作成
イベント関連企業一覧表を、精度の高いものへと改善する。
 - ・協賛品や協賛金額の確認
 - ・協賛企業への事前の連絡
 - ・イベント終了後の報告及び入金の確認
- ⑤ ジュニアトーナメントについて
 - ・全国選抜ジュニアテニス選手権大会を頂点とし、関東協会公認大会及びブロッホカップ、チャレンジマッチに至るまで、普及と強化の観点からも十分考慮され運営されている。今後も、大会運営の質を保ち継続して開催していく。
 - ・関東協会公認のジュニア大会については、協会の公認を得るためのレギュレーション、各ルールを理解し、順守しながらの開催、運営になり、今後数年をかけて引き継ぎ等人材育成を視野に入れていく。

※2011年度新企画 ・Play+Stay のジュニア大会イベントの開催
グリーンボール使用

I 総務部門

1. 企 画

(1)コンピュータ関連整備

①顧客管理システムの導入

顧客管理システム『サービスエース』のお客様の利用状況は2009年度同様、2010年度も目標の70%代をキープしている。引続きTTCをご利用頂く方々にスクールレッスン予約・キャンセルなどは携帯電話やパソコンの利用をご案内し、2011年度も高水準の継続を図る。

年 月	会員操作	問合せ総数	会員操作÷問合せ総数
2008年度平均	2,556	3,550	71.5%
2009年度平均	2,160	2,949	73.0%
2010年度平均	2,760	3,624	76.0%

②顧客情報管理の徹底

諸企業、関係団体、個人情報顧客情報管理システムで管理し、TTC内での情報の共有化を図り、更なるサービスアップへ繋げ、データのセキュリティ対策を引き続き徹底する。

(2)コート管理と運営

①コート予約状況の把握と営業

- ・定期的(毎月末)なコート調整ミーティングを開き、毎3ヶ月先までのコート予約の確認と、空きコート状況を把握し、直ちにコート利用の検討に入る。
- ・各団体(企業、大学等)、レッスン終了後のお客様に対しご案内し、稼働率増加に努める。
- ・その他のレンタルコートの新規開拓も必要と考えており、ホームページなどのお知らせなどでの情報発信も行う。

②コート稼働率の推移

2007年度(平成19年度) インドアコート 98.9% アウトコート 58.0% 全体 72.0%

2008年度(平成20年度) インドアコート 99.0% アウトコート 62.0% 全体 72.8%

2009年度(平成21年度) インドアコート 89.5% アウトコート 55.3% 全体 65.1%

(2008年度は9時～21時で算出、2009年度からは6時から24時で算出)

2010年度(平成22年度) インドアコート 87.5% アウトコート 57.7% 全体 66.2%

(3)備品・消耗品などの節約についてスタッフの意識の向上を促す

①引き続きコピー用紙・インク・封筒・消耗品等節約に努める。

- ・コピー用紙の裏紙利用し、カラープリントは枚数と用途を記入し意識付けをする。
- ・各パソコンの通常印刷をモノクロに設定し、カラーは必要な場合に選択またはインクジェットプリンターを利用する。
- ・多量印刷(50枚以上)の場合はリソグラフ印刷機を使用する。

②通信費・電話代(NTT、NTTコミュニケーション、KDDI含む)の節約

- ・携帯電話に電話する場合は頭に 0033 を付ける。(割引料金)
- ・急がない場合はメール等の利用で済ませる。
- ・イベント、大会の要項申込書はホームページを利用する。

(4) イベント管理と協賛企業

① イベントの整理

- ・各イベントの性格や方向性を明らかにし、協賛のお願いをする。
- ・協賛企業、協賛内容、入金状況の確認をする。
- ・イベント等をご理解頂き、新規開拓を進める。
- ・イベントと各プログラム、各セクションの連携の強化を進める。

2. 広報 ビジュアル事業計画

(1) 館内掲示物の維持管理および発行物の CI 管理

① 掲示物

- ・トーナメントの入賞報告を随時掲示
- ・タイムリーな情報の伝達
- ・ジュニアボードの更新

② TTC ロゴ

- ・掲示物の統一感を持たせるため、引続き同一データの TTC ロゴを添付の徹底

③ スタッフボードおよびスタッフイントロダクションブック

- ・スタッフボードとスタッフイントロダクションブックを維持、管理
(資格等の変更についても速やかに反映させていく。)
- ・ホームページのコーチ紹介ページは、随時情報のアップデートを徹底

(2) 広報活動

① ホームページの運営管理

- ・サイト滞在時間を伸ばす、またアクセス増加策として、検索エンジンの上位ランキング維持のため、コンテンツの充実（読むページを含む）を図る。
- ・リスティング広告を中心に PR を実施する。
- ・アクセス分析を参考にイベント情報、結果等のアップデートを迅速に行う。

② その他の PR

- ・J-COM（ケーブルテレビ）取材による柏オープンのレポートは2011年度も継続して行う。
- ・国枝選手を中心に取材を受ける中で、引続き TTC のクレジットの露出に努める。

(3) TTC 各イントロダクションDVDの更新

- ・イントロダクションDVDを更新し20周年記念誌へ添付、必要に応じ映像をアップデートする。

(4) TTC プログラム、イベント等におけるビジュアルサポート

- ・車いすプレーヤーズプログラム選手に対し、ビデオとチェックを実施する。
- ・各種ビジュアルデータを加工し、コーチ、選手に提供する。

- ・各種研修会を記録用として撮影し、活用する
- ・テニスレッスン15年永年継続表彰の記念品作成をする。
- ・各種プレゼンテーション用のスライドデザインを作成しイメージの統一を図る。

(5)メディア対応および刊行物の記録

- ・取材対応を関係団体、各セクションと協力し対応する。
- ・取材を受けるだけでなくTTCのPRも能動的に行う。
- ・刊行物や放映された映像や記事の記録保存する。

(6)TTCニュースの発行

- ・TTCニュースの編集と送付(年3回 5、9、1月)。
- ・2011年度のニュースの内容について編集会議を開きまとめていく。

3. 賛助会活動事業

(1) 賛助会〈個人賛助会員、地方会員、法人会員〉

2010年度も賛助会による支援の結果、下記のようなことが実現できた。

- ・国枝慎吾選手がオーストラリアンオープンでシングルス5連覇、ダブルス6連覇達成する。
- ・小和瀬望帆選手がITF世界スーパージュニアでシングルス準優勝。
- ・千村夏実選手が全国中学生大会で優勝。
- ・古川真実選手が全日本ジュニア14歳以下シングルスで優勝。
- ・村松千裕選手が全国選抜ジュニアテニス選手権大会12才以下で優勝。
- ・指導者の育成面では、リチャード・シオンボーン氏、アン・クィーン氏などトップクラスの指導者との交流。

(2)目標と実績

・2011年度 新規個人賛助会員数	目標
	テニス部門 50人
	その他、外部 10人
	計 60人

(3)賛助会の継続と入会について

①賛助会員個人プロフィールの整理

②アダルトプログラムの方々へのLe Club TTCへ入会のお誘い

- ・各コーチが積極的に練習会、イベント等への参加を促し、紹介する。
- ・Le Club TTCの中心になるの方々へ紹介のお願い

③TTCに関わっているの方々へ入会、継続のお願い

- ・TTC理事、評議員、スタッフへのお願い
- ・TTC関係業者へのお願い(入会、継続)
- ・施設管理関係の業者
- ・その他

④その他

- ・Le Club TTCの方々には、MFAの取得、そしてヴォランティア参加の

ご案内

- ・10年継続会員の表彰（2011年の11月に永年継続（10年以上）をして頂いている会員の方が対象）
- ・20年継続会員の表彰の検討（2012年11月予定）
- ・サービスエース（システムの顧客情報）への情報の集約化

(4) 賛助会員対象イベント

- ・初打ち大会（年1回 1月実施、現在14回開催）
- ・賛助会ゴルフコンペ（年4回実施、現在15年経過・62回開催）
- ・サマーパーティー（年1回 7月予定、現在11回開催）
- ・ル・プルジュース（年20回 土曜日・水曜日実施）
- ・クラブ練習会（各週開催）
- ・ヴァンベール（年2回 5月／10月予定、現在18回開催）
- ・国内外遠征（津幡町、木更津 韓国など）
- ・音楽会 ボサノバ（9月予定、現在4回開催）

4. ヴォランティア事業

(1) ヴォランティア活動内容

- ・柏市巡回教室へのご協力
- ・年間を通じてのガーデニング、お花の飾り付け
- ・ピヨピヨ親子ショートテニス教室（年4回）
- ・おはようキッズ（毎週日曜日）
- ・ジュニアトーナメントの大会運営
- ・関東ジュニアテニスツアーのロービング
- ・ウェルフェア
- ・JWTA マスターズ運営、送迎
- ・かしわオープンの運営
- ・KAZUKO 杯の集客、運営
- ・ピーナッツカップの運営、ロービングアンパイアー
- ・バラの手入れ
- ・ホームステイ
- ・その他

※掲示板にてお知らせや、活動の様子を掲示している。

(2) ヴォランティア講習会の予定

各イベントごとにご協力いただく内容を整理し、それぞれの講習会、応急処置の実習会などへの参加を促す。

① ヴォランティア講習会の実施

- ・応急処置の対応
- ・ピヨピヨ親子 講習会(年3回)
- ・バラの講習会 剪定の実習会

(3) ヴォランティア活動の参加誘致について

- ① TTCスタッフ
- ② Le Club TTC の方々
- ③ ジュニアのご保護者（年間計画による）
- ④ TTCを利用する方々（アンケート参照）

⑤ TTC外部の方々

(4)その他

- ① M.F.Aの取得の呼びかけ
- ② 各セミナー等のご案内
- ③ その他

5. プロショップ事業

(1)購買のタイミングとアプローチ

- ① 2010年度売上は現場の強みであるラケット・ストリング・シューズ売上の必需品に切り替え、順調に進んでいる。2011年度は商材を絞り込み、お客様に対してお勧め商品を分り易くしていく。
- ② 2010年度売上状況報告

【単位：円】

4-11月	2009年	2010年	2010年予算	予算比
売上	16,074,418	16,158,811	15,900,000	258,811 101.6%
仕入	12,754,636	12,402,008	11,700,000	702,008 106.0%
利益	3,319,782	3,756,803	4,200,000	-443,197 89.4%

③目標

コーチングスタッフ販売目標設定
 シューズ1足、ガット張り替えキャンペーン1回、
 ラケット販売 年間10本

④売上見込み

売上2400万円、粗利益500万円
 (ラケット650万・シューズ680万・ガット+加工代500万・ウェア350万・アクセサリ220万)

⑤販売のタイミング

- ・バースデーカードの割引特典の活用(ラケット、シューズ30%割引)
- ・年2回の試打会(5月、11月開催)
- ・ガット張り替えキャンペーン(年3回)の実施
- ・毎月におけるメーカー別キャンペーンの実施(ラケット30%割引+張り代、機種を絞り込む)
- ・ワゴンセールの実施
- ・売れ筋ランキング(人気商品の提案)
- ・年1回のラケット下取りセール

⑥目標に対する施策

- ・月次販売促進商品の提案をより明確化
 各メーカーフェアの中でラケット2機種、シューズ1機種ほど絞り込み提案する。

・バーゲン商材確保

ウェアを中心としたバーゲン商材確保のためにも、メーカーとの商談を積極的に行う。

⑦ストリンガーの育成

オフィシャルストリンガーとして3名体制で行う。張替予定表（平均140本）を出し、レッスンと並行して業務にあたる。

また、フルタイムスタッフにキャンペーン以外の張り替えも業務として協力を要請する。

1回あたりの張り替えキャンペーンの対応は、オフィシャルストリンガーが150本とフルタイムコーチが150本張り替える。

*オフィシャルストリンガーの教育においては、ストリンガー講習会へ参加し資格を取得させる。

⑧取引先メーカーモニターコーチの変更について

2011年度は契約コーチの変更は行わない。しかし契約メーカーの変更は、マンネリ化の解消と売上の活性化には不可欠なので、今年度の実績から検討してゆく。

⑨スクールバースデーカードによる割引特典

当店取扱ブランドのラケットフレーム（ストリング+張り代）とシューズ30%OFFの特典をつける。

受講生への販売を年間ラケット1本、シューズ1足を最低販売ノルマとしてこのカードの有効利用を図る。

6. フロント事業計画

(1) 目標

お客様への安定したサービス・ホスピタリティ・安全管理の向上を目指す。

①スタッフ間のチームワークの徹底=お客様へのスピーディーな対応、満足度を上げる。

②情報管理の意識向上=引き続き提案型の接客。

③TTC、テニスの理解し発信をする。

(2) 計画

①TTCフィロソフィーの理解と実行

②教育プログラムの参加と実行

③メディック・ファースト・エイドの取得

④情報の共有と発信

・月曜日から金曜日のブリーフィング
スタッフへの情報発信をする。

・お客様チェックシート[スタッフが記入できる情報処理シート]
所長・AGM・担当者へ提出し報告する。

- ・ユーザーズボイス[会員のお客様が直接書き込むメッセージメール]
担当セクションと解決法を見出し終結する。
- ・サービスエースのメモ欄
フロント・コーチ・経理との情報共有する。

7. その他

(1) 国際交流について

- ◇Dr アン・クィーン氏 2011年 2月23日～25日 来日予定
2005年スポーツ科学セミナー講師、S級ライセンス資格認定講習会講師
車いすテニスプログラム、指導者、選手に対するフィットネス、メンタル面での指導
(Head of sports science Dr Ann Quinn)
- ◇リチャード・シオンボーン氏 2011年 5月15日～5月22日 来日予定
2003年スポーツ科学セミナー講師、S級ライセンス資格認定講習会講師
TTC コーチングスタッフ(外部含む)の研修会を実施予定

(2) 財日本テニス協会・社日本プロテニス協会・社日本テニス事業協会

日本女子テニス連盟及び日本車いすテニス協会等各テニス団体との協力と交流

JTA ナショナルチームメンバー、海外からのATP・WTAランカーの施設利用、
専門委員会・各地域協会・都道協会の行事消化についても協力する。

- ★日本テニス協会・関東テニス協会・千葉県テニス協会ベテラン委員への役員派遣。
- ★関東テニス協会ジュニア委員会、千葉県テニス協会及びジュニア委員会への役員派遣。
- ★関東テニス協会ジュニア委員会、千葉県ジュニア委員会主催大会へ役員・運営委員派遣。
- ★関東テニス協会公認大会
 - ・関東ジュニアツアー
 - ・TTC ジュニア18歳・16歳・14歳・12歳各年齢別、
 - ・ヨネックスカップ14歳・12歳各年齢別)
 - ・第36回柏ジュニアテニス選手権大会(ピーナツカップ)の主催。
- ★千葉県テニス協会ジュニア委員会強化委員としてニュージーランド海外遠征に帯同。
- ★千葉県ジュニア委員会主催大会(千葉県ジュニアテニストーナメント、ジュニアサマーテニストーナメント、のびす大会)へのコート及びセミナールーム利用提供。
- ★柏市並びに柏市テニス協会に協力しテニス巡回教室を開催。

(3) 財日本テニス協会・社日本プロテニス協会・社日本テニス事業協会、日本女子テニス連盟、日本車いすテニス協会、中学・高校・大学関係、テニス学会、民間テニスクラブ、諸テニス団体とも交流を図り、講師派遣、イベント・トーナメント等の施設使用の協力関係を継続する。

- ・全日本選抜ジュニアテニス選手権大会の開催
- ・ITF男子フューチャーズかしわオープン

- ・スポーツ科学セミナー
- ・JWTA マスターズ
- ・マナーキッズテニス
- ・柏ジュニアテニス選手権大会
- ・各種セミナー開催

また、JTA(日本テニス協会)・JPTA(日本プロテニス協会)・JITA(日本テニス事業協会)・ JWTA(日本車いすテニス協会)との情報交換並びに協力体制をとっていく。

当センターとしては『公益財団法人』の認定を目指し、内閣府あて2011年1月15日に申請を行った。

(4)各種団体への募金活動

各イベント開催を通して理解を求め、社会還元及び地域への貢献活動を推進する。

(1)財団法人 日本ユニセフ協会

... KAZUKO 杯・JWTA マスターズ・年末時開催のTTCウェルフェア

(2)アーサーアッシュ・エイズ撲滅財団

... クリスマスマックスダブルス・KAZUKO 杯・JWTA マスターズ
年末時のTTCウェルフェア

(3)財団法人 世界自然保護基金(WWF)

... 年末時のTTCウェルフェア

(4)乳癌撲滅啓蒙運動

... レディースチームテニストーナメント開催時

(5)千葉県テニス協会・ジュニア委員会ジュニア基金

... ピーナッツカップ柏ジュニアテニス選手権大会

以上